**第7章　水産業**

**概況**

　本府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれている。  
　大阪湾は流入河川が多く、餌料生物が豊富で漁業資源に恵まれ、単位面積当たりの漁獲量は瀬戸内海でも上位にランクされている。  
　南北に連なる屈曲の少ない海岸線は府下８市４町にまたがり、漁港は昭和60年３月末現在で12港、そのうち第１種は８港、第２種又は第３種が４港となっている。  
　外洋からの回遊魚は少なく、内湾性の魚介類が大部分を占め、主な漁獲物は、魚類では｢いわし｣、｢いかなご｣、｢このしろ｣、｢かれい類｣、水産動物類では｢しらさえび｣、｢がざみ｣、｢しゃこ｣、｢こういか｣、｢まだこ｣、貝類では｢あさり｣、海藻類では｢わかめ｣などである。

**漁業経営体数と漁船数**

　昭和58年11月１日現在で実施された第７次漁業センサスの結果、本府の漁業経営体数は、第６次漁業センサス（昭和53年11月１日実施）の791経営体から49経営体（6.2％）増加して840経営体となった。このうち、個人経営体は796経営体で、総数の94.8％を占めている。  
　昭和60年末現在の登録漁船数は、1671隻で、前年の1668隻より３隻（0.2％）増加している。このうち、動力船は1625隻で前年の1622隻より３隻（0.2％）増加しているが、無動力船は前年と同じく46隻である。

**漁獲量**

　昭和60年中の総漁獲量は６万7563 t で、前年の７万130 tより2567 t （3.7％）減少した。  
　漁獲量を市町別にみると、岸和田市が３万9584 t（構成比58. 6%）で最も多く、次いで泉佐野市が8870 t （同13.1％）となっている。  
　漁業種類別にみると、まき網が５万6562 t（構成比83.7％）と大部分を占めており、以下、パッチ網が6361 t（同9.4％）、底びき網が2595 t（同3.8％）の順となっており、この３漁業で全体の97.0％を占めている。  
　また、魚種別にみると、魚類が６万5777 t（構成比97.4％）と漁獲量のほとんどを占めており、以下水産動物類が1563 t（同2.3％）、海藻類が191 t （同0.3％）、貝類が32 t（0.0％）の順となっている。魚類のうちでは「いわし」が５万8844 t で最も多く、89.5％を占めている。

**内水面漁業漁獲量**

　昭和60年中の内水面漁業漁獲量は16 tで、前年より8 t減少した。この減少傾向は、この数年続いており、昭和55年の漁獲量（30t）の約半分となった。  
　主な魚種別にみると、「あゆ」が10t（構成比62.5％）で最も多く、次いで「うなぎ」の2 t （同12.5％）となっている。

**内水面養殖業収獲量**

　昭和60年中の内水面養殖業収獲量は725 t で、前年の698tより27 t （3.9％）増加している。  
　養殖魚種別に主なものをみると、「ふな」が504 t（構成比69.5%）で最も多く、以下、「こい」が69 t （同9.5％）、「うなぎ」が42 t（同5.8％）、「にじます」が41ｔ（同5.7％）の順となっている。